

令和7年2月4日

第75回ベルリン国際映画祭に関連して文化庁が実施する取組について

文化庁は平成15年度から「日本映画の海外発信事業」として、海外映画祭における出展や海外映画祭への若手監督の派遣など日本映画の効果的な魅力発信につながる取組を実施しています。

本事業の一環として、第75回ベルリン国際映画祭において、日本映画の魅力発信や海外の映画関係者との交流促進・関係強化に資する取組を下記のとおり予定していますのでお知らせします。

① 併設見本市における「ジャパン・ブース」の出展

ベルリン国際映画祭併設見本市である「ヨーロッパ・フィルム・マーケット（EFM）」において、下記のとおり「ジャパン・ブース」を出展し、10社（予定）の企業が参加します。日本映画の制作者や代理者による海外広報・営業活動の拠点として、広報活動や海外公開に向けた取組等を支援します。また、若手日本人映画監督海外プロモーション（②）の活動拠点としても活用します。

○ブース設置期間：令和7（2025）年2月13日（木）～2月19日（水）の7日間

○会場：映画祭併設見本市「ヨーロッパ・フィルム・マーケット（EFM）」メイン会場
マルティン・グロピウス・バウ

○ブース面積：58㎡（出展者スペース/受付/イベントスペース/スタッフスペース/倉庫含）

○ブース使用企業：10社（予定）

○過去のジャパン・ブースの様子



② 若手日本人映画監督による海外向けプロモーションの実施

この数年国内外においてめざましい活躍をみせる若手日本人映画監督をベルリン国際映画祭及び併設見本市へ派遣します。本年度は、荒木伸二監督、草場尚也監督、串田壮史監督の3名の監督を派遣し、講義、交流会、企画のピッチの機会を通じてプロデューサー、セールスエージェント、映画祭プログラマーなど業界プロフェッショナルとの関係構築を深めます。

【参考1】ベルリン国際映画祭若手日本人監督海外プロモーション派遣監督3名を決定

③ 在ドイツ日本国大使館主催「Japan Night」への若手日本人映画監督参加による交流機会提供

ベルリン国際映画祭開催期間中に、在ドイツ日本国大使館で開催されるレセプション「Japan Night」に若手日本人映画監督3名が参加し、ベルリン国際映画祭の機会を利用した参加者等との人脈構築や交流機会を提供します。本レセプションは在ドイツ日本国大使館が主催し、文化庁、経済産業省が協力して開催します。

【参考2】在ドイツ日本国大使館主催（文化庁、経済産業省協力）「Japan Night」の開催概要

【参考：ベルリン国際映画祭】

1951年にドイツの映画史家アルフレッド・バウアーをディレクターに迎えて以来、毎年2月にドイツのベルリンで開かれている国際映画製作者連盟（FIAPF）公認の国際映画祭で、カンヌ国際映画祭、ヴェネツィア国際映画祭に並ぶ世界三大映画祭の一つ。

ドイツの首都ベルリンでの開催ということで、世界中の映画関係者が参加し、併設見本市「ヨーロッパ・フィルム・マーケット（EFM）」はヨーロッパに向けた発信や広報活動の場となっている。ベルリン国際映画祭における最高賞である金熊賞をこれまで受賞した日本人監督作品は以下のとおり。

（参考）

- ・昭和38年（1963年） 今井正監督『武士道残酷物語』
- ・平成14年（2002年） 宮崎駿監督『千と千尋の神隠し』

文化庁参事官（芸術文化担当）

参事官 圓入 由美

参事官補佐 是永 寛志

専門職 新井 慶子

【代表】03-5253-4111（内2083）

ベルリン国際映画祭 若手日本人監督海外プロモーション 派遣監督3名を決定

2025年1月14日

公益財団法人ユニジャパン

文化庁事業「令和6年度日本映画の海外発信事業」の一環として、ベルリン国際映画祭 若手日本人監督海外プロモーションにおいて、ベルリン国際映画祭及び併設見本市へ派遣する映画監督3名が決定しました。

本事業では、この数年国内外においてめざましい活躍をみせている若手日本人映画監督を対象に参加を募り(*)、審査を行った上で3名の監督を選抜しました。

選抜された荒木伸二監督、草場尚也監督、串田壮史監督は、[第75回ベルリン国際映画祭](#)及び併設見本市「[ヨーロッパ・フィルム・マーケット 2025](#)」に現地参加し、プロモーション活動を行うことにより、自身の知名度の向上及び国際的な業界関係者とのネットワークの構築を図ります。映画祭・見本市の視察を通し国際的な映画産業への見識を深め、今後の国内外での活動の糧としていただくとともに、後日この機会に得た学びを映画製作者へ共有していただく予定です。

(*) 本事業への応募条件は、令和3年以降に国内外の[対象映画祭](#)の長編部門に出品実績があり、劇場公開した長編監督作品が3本以内の日本人映画監督で、参加時にピッチする企画（アニメーション、ドキュメンタリーを除く）があることとしました

「ベルリン国際映画祭 若手日本人監督海外プロモーション」は、文化庁より公益財団法人ユニジャパンが委託を受け、運営等を行っております。



(左から 荒木監督、草場監督、串田監督)

■派遣監督（3名） ※五十音順

荒木 伸二（あらき しんじ）

1970 年東京生まれ。東京大学教養学部表象文化論科卒。卒論はジャックリヴェット。

2016 年、テレビ朝日シナリオ大賞、MBS ラジオドラマ大賞、伊参映画祭シナリオ大賞などシナリオ賞を数多く受賞。2017 年、木下グループ新人映画監督賞の準グランプリを受賞し長編映画の開発を開始。2020 年、初監督長編映画『人数の町』が公開。モスクワ映画祭、バンクーバー映画祭に正式招待。シカゴ・アジアポップ映画祭では、オープニング作品。その後もフランクフルト NipponConnection、台湾高雄映画祭、リーズ国際映画祭などの映画祭にて上映。韓国では一般公開。2024 年、長編映画第二作『ペナルティループ』が公開。ブリュッセル国際ファンタスティック映画祭、ファンタジア国際映画祭、どちらもインターナショナルコンペティション部門に招待。ファンタジアでは、編集賞、音楽賞、観客賞銅賞、三冠を達成。

草場 尚也（くさば なおや）

1991 年長崎生まれ。大分大学教育学部卒業後、映画監督を志し上京。映画美学校入学後、高橋泉に師事。卒業後は映像制作会社に入社し、プリプロ・撮影・ポストプロに携わる。会社を退職して 2019 年に製作した自主制作映画『スーパーミキンコリニスタ』がびあフィルムフェスティバルで 2 冠、北京国際映画祭の注目未来部門に招待されるなど、国内外の映画祭で反響を呼び、劇場公開。2024 年、初の劇場用長編映画『雪子 a.k.a』を製作、海外の映画祭へ参加。国内では 2025 年 1 月よりユーロスペースほか全国での劇場公開が決定している。

串田 壮史（くしだ たけし）

1982 年大阪生まれ。ピラミッドフィルム所属。長編デビュー作『写真の女』（20）は、世界中の映画祭で 40 冠を達成し、7 カ国でのリリースが決定。同作で SKIP シティアワードを受賞して製作された『マイマザーズアイズ』（23）は、イギリス最大のホラー映画祭・ロンドン フライトフェストで《J ホラー第 3 波の幕開け》と評され、世界に向けて配給が行われている。長編第 3 作の『初級演技レッスン』（24）は SKIP シティ国際 D シネマ映画祭のオープニング作品として企画・製作された。

■プログラム内容 派遣期間：2025/2/13-2/19

監督 3 名は、渡航前に事前講義を受講、各自準備している新企画のピッチングアドバイスを受けブラッシュアップしたうえで現地へ向かいます。

派遣中は「ヨーロッパ・フィルム・マーケット」に文化庁が設ける「ジャパン・ブース」を活動拠点とし、講義、交流会、企画のピッチの機会を通じてプロデューサー、セールスエージェント、映画祭プログラマーなど業界プロフェッショナルとの関係構築を深めます。また、映画祭期間中に配布される業界紙に広告掲載を予定しています。

その他マーケットスクリーニングやセミナー、インダストリーセッションには各自の興味関心に合わせて参加いただきます。

■本件のお問い合わせは下記「ジャパン・ブース事務局」までお願いします

【主 催】文化庁

【事務局】公益財団法人ユニジャパン

【お問い合わせ】ユニジャパン ジャパン・ブース事務局

〒104-0045 東京都中央区築地 4-1-1,15 階 TEL：03-6226-3022 E-mail：office@unijapan.org

在ドイツ日本国大使館主催「Japan Night」の開催概要

Japan Night

ベルリン国際映画祭の機会を利用し、日本映画のPRや国際的なネットワークの構築、ロケ誘致等を目的として在ドイツ日本国大使館で開催するレセプション。文化庁事業「令和6年度日本映画の海外発信事業」の一環で派遣する若手日本人映画監督3名（荒木伸二監督、草場尚也監督、串田壮史監督）及び経済産業省事業「令和5年度我が国の文化芸術コンテンツ・スポーツ産業の海外展開促進事業（コンテンツ産業の海外展開等支援）（JLOX+）」の一環で派遣する若手日本人プロデューサー3名（古市あきほプロデューサー、吉原裕幸プロデューサー、吉岡フローレス亜衣子プロデューサー）も参加（予定）し、関係者との交流等を図る。

■日時: 令和7(2025)年2月17日(月) 18:00～20:00(受付開始 17:30 最終入場 19:30)

■場所: 在ドイツ日本国大使館 大使公邸

■主催: 在ドイツ日本国大使館

■協力: 文化庁、経済産業省

■問い合わせ先: 在ドイツ日本大使館 広報文化班 jpn-emb-press@bo.mofa.go.jp